

ミカンキイロアザミウマの発生と見分け方

これまでわが国で発生が知られていなかったミカンキイロアザミウマ *Frankliniella occidentalis* (Pergande) が、本年6月に千葉県の新巻町、埼玉県の大宮市、千葉県の大宮市などで初めて確認された。今後の発生動向が注目されることから、被害の特徴及び本虫の見分け方などを紹介する。

分布 北アメリカ、ハワイ、ヨーロッパ、ニュージーランドなどの国々に分布している。
寄主植物 シクラメン、インパチエンス、カーネーション、ガーベラ、キク、カボチャ、キャベツ、ジャガイモ、トマト、メロン、カンキツ類、ネクタリン、ブドウ、プラム、マンゴウ、モモ、リンゴなど多くの寄主植物が記録されている。

被害の特徴 成虫・幼虫は鋭い口器で植物の葉・花・若芽から汁液を吸収するために、被害部の食痕が変色して品質を低下させる。

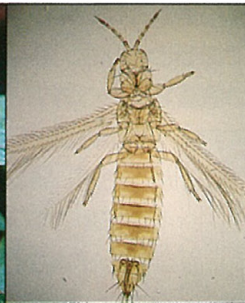
シクラメンでは花にかすり状斑と奇形花が発生している。インパチエンス及びガーベラでは新葉の萎縮及びかすり状斑、また、ガーベラでは花のかすり状斑点なども認められているが、今のところ被害は軽微である。

なお、本虫はトマト、ジャガイモなどに被害を与えるトマト黄化えそウイルス (TSWV) の媒介者としても知られている。

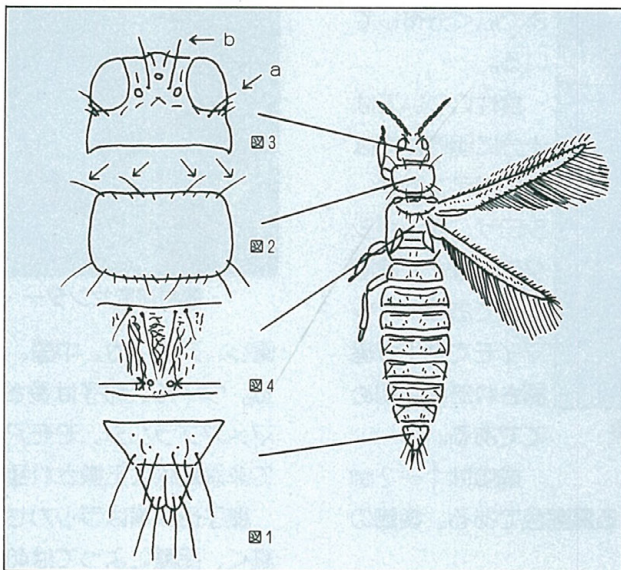
生態 1世代は26.7℃で13.9日間、15℃で44.2日間である。アメリカでは成虫または老熟幼虫で越冬し、春先から個体数が増加しはじめ、5月頃にピークに達し、その後減少する。乾燥すると個体数は急激に減少する。夏になると発生世代が重なり合う。



インパチエンスの被害
千葉県農業試験場 福田 寛氏提供



ミカンキイロアザミウマ



形態による見分け方

本虫の体長は雌で1.4～1.7mm、雄で1.0～1.15mm、体色は変化が大きく、明黄色～褐色斑を伴う黄色～暗褐色である。

成虫は各種植物の花でよく見られるヒラズハナアザミウマ *F. intonsa* に類似しているが、本虫は次の形態的特徴により、他種と区別することができる。
 ①腹部末端は円錐状である (図1)
 ②前胸背板前縁に4本の長刺毛を備える (図2)
 ③複眼後方刺毛 (図3-a) の内側から4番目は長く、単眼間刺毛 (図3-b) よりわず

かに短い

④後胸背板中央の後縁近くに1対の鐘状感覚器を備える (図4)。なお、後胸背板の鐘状感覚器はプレパラートを作成し、透過光で検鏡すると分かりやすい。